

	<h1>志木三小だより</h1> <p>学校教育目標 賢く 優しく 逞しく</p>	志木市立志木第三小学校
		平成30年度 第7号
		平成30年10月1日
		志木市柏町3丁目2番1号
		TEL 048 - 471 - 1062
		児童数10月1日現在585名

ゴールデンエイジ

校長 可知 良之

教員になってまだ駆け出しの頃、子供の発達について勉強していたときゴールデンエイジという言葉を知りました。スポーツの世界では常識のようですが、初めて聞く言葉でしたので大変興味をもちました。ゴールデンエイジとは子供の運動神経が著しく発達する時期のことで、具体的には5歳から12歳の頃とされています。小学生はゴールデンエイジのまっただ中にあるわけですが、特に神経系の発達が著しいのは9歳までの前半だそうです。ちょうど3年生に当たります。この時期には体の動かし方、動作、技術を短時間で覚えることができます、一生に一度だけの貴重な年代と言われています。裏を返せばこの時期を逃してしまうと、その後の習得が難しくなるということです。

逆上がりの学習は小学校3年生で行っています。一度できさえすれば一生もので、何度でもできるようになるのですが、かなり苦戦する子もいます。かつて受け持った6年生の教え子もそうした一人でした。逆上がりがどうしてもできるようになりたいと人目の付かない公園で夕方練習をしていることをこっそり教えてくれました。そして、冬に入ろうとする秋のある日の放課後、「先生、できるようになったよ。」と嬉しそうに報告に来てくれました。今でもその時のことは、忘れないと言っています。埼玉県教育委員会がかつて、逆上がりができるようになったのはいつからかという統計を取ったことがありました。その結果によると小学校3年生を境に極端にできる確率

が下がっていました。ですから、私の教え子はかなりの努力をしたのだと思います。

ゴールデンエイジは運動に限ったことではなく、学力でも同じようなことがあると感じます。理由はよく分かりませんが、小学校2年生の頃は算数や国語のドリルといった単純な繰り返し練習を好んで行います。そして、この時期にしっかりと取り組んでおくとその後も計算や漢字の練習が好きになっていく子が多いようです。九九の暗記も2年生で集中的に行います。この時期に九九が自由自在に使えるようにしておかないと、その後のわり算でつまずいてしまい、ひいては高学年での算数嫌いになりかねないので徹底して取り組んでいきます。これも子供たちの発達の段階に合っているのだと思います。低学年では週に1時間、国語の学習に読書が位置付けられています。読書習慣も小さいうちに身に付けておかないと、大人になってからはなかなか身に付きにくいものでしょう。毎日読書をする子の中には様々なジャンルの本を年間200冊以上読みこなす子もいて、知識や語彙が豊富なだけでなく、ものの見方や考え方がとても豊かに育っていきます。

日々いろいろなことにチャレンジしながら学び、力を付けていく子供たちのため、学びの地図として発達の段階に合わせた教育指導計画があります。今の学年だからこそ身に付くことが毎日溢れています。年間200日足らずの登校日、1日1日を大切に過ごさせてあげたいと思います。